

### <Aさんの姿の評価>

- 手指の巧緻性に課題があるため、素早く作業をこなすことができにくい面は見られるものの、繰り返しが多ければ、作業手順はしっかりと理解できるであろう。
- 工程表など、判断していくヒントになるものが視覚的・具体的に示されていればそれを見て判断できるであろう。

### <本単元によせるAさんの願い(○)と手だて(□)>

- 活動の見通しが持てなかったり活動の始めや終わりがわからなかったりした時には、自分から相手に伝え、職員や友だちに助けを求めることができる。
- ヘルプカードを用意して、困った時にはそのカードをあげて職員を呼べるようにする。
- 話しやすい生徒と同じテーブルで作業をするように配置し、本人が助けを求められるようにする。

### <単元に向けた授業改善の方向>

- 洋菓子店「あんだんて」に行ってみ学し、話を聴くことを通して、新たな製品づくりへの意識を高め、自分たちの作業を見直すきっかけとする。
- 新しい製品の開発に取り組むことで、生徒間での話し合いや、先生方に試食してもらう活動など、相手を意識してコミュニケーションをとる場面を設定していく。
- 職員間で個々の生徒に願う姿を確認しあい、個に応じた支援の方法を統一していく。

## (2) 実際の生徒の姿から

公開授業においては、多くの参観者がいる中でも自信を持って、集中して作業に取り組む生徒の姿が印象的であった。特に、実際の洋菓子店を見学したり先生方に試食してもらったりする経験を重ねて、自分が目指していく製品のイメージをしっかり持つことができた単元展開が有効であったと思われる。また、個々の課題に迫るために、グループ編成を工夫し、個に応じた手順書が用意されているなど細かな手だてが、たいへん有効であった。教師の立ち位置や声のかけ方、生徒によってはさらに高いレベルの課題があってもよいのではないかなどの課題が残された。



## (3) この事例から明らかになったこと

単元の構想を立てるにあたって、個別の指導計画に基づいて個々の生徒の育ち複数の目で評価し、そこで明らかになった課題に迫るための単元展開や支援のあり方を検討することの重要性が改めて確認できた。特に、以下の点については、来年度以降も大切にしていきたい。

- 児童生徒の姿をプラスの視点でとらえていくとともに、将来の自立の姿も思い描きながら単元におけるねらいをより具体的にしていく
- 年度途中での評価をもとに、個別の指導計画を絶えず修正する機会を設ける
- 支援の方向について、支援員の先生も含め担当で共通理解をはかる場面を大切にする
- 地域の方とのふれあいや外部講師による指導など地域生活につながる体験を大切にする

## 4 来年度への課題

来年度もメインテーマは継続し、個別の指導計画に基づいて、評価を生かした授業改善を進めていく点について、さらに研究を深めていきたい。ただし、教科等を合わせた指導における実践研究を3年間継続したので、どの授業場面を扱うかについては限定せずに、評価を生かした支援のありかたを中心に研究を深めていきたい。